

師走を迎え何かと慌ただしい時期ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

今回は道東・遠軽町にある道の駅『遠軽 森のオホーツク』へ寄ってきました。こちらの施設は旭川とオホーツク圏を結んでいる旭川紋別自動車道の遠軽ICに隣接しています。今回初めて伺ったのですが、びっくりしたのが駐車場の裏山がスキー場で、この日はちょうどオープン初日だったらしく沢山のスキーヤーやスノーボーダーが初滑りを満喫されていました。現在は冬期でスキー場となっておりますが、雪の無い時期はジップラインやソリートレッキングなど1年中アクティビティが楽しめるそうです。また、炭酸泉の足湯施設も無料で利用できるそうなので、次回寄る時はタオルを忘れずに用意しておこうと思います。

札幌営業所(所長:清水 壮次郎)

KOYORAD

世界の拠点から
-From the base in the world-



～薔薇より難しい?～

引っ張って作るから拉麺(ラーメン)、刃物で削るから刀削麺など中国にはユニークな製法の麺がたくさんあります。日本のおいしい拉麺も今や世界に誇る国民食となりましたが、中国では各地に個性の強い麺がズラリ。

今回はその中でも特にキャラの強い麺の一つ。陝西省(せんせいしょう)西安が発祥の『ビャンビャン麺』です。麺の味もB級グルメならではの旨さですが、中国人も書けないほどの画数の多い漢字で全国的にその名が知られています。“ビャン”は中国語の発音ですが、表記は57画もある奇想天外な漢字が使われます。馬、月、心などたくさんの部首が含まれ、日本語の『薔薇』や『憂鬱』よりも難易度は上かも。ワープロでも出てきません。

幅広で長い手延べ麺はまるでベルトのような太さです。きしめんの5倍くらいの幅のもちもち麺を唐辛子や山椒、きざみ葱などをのせ、特性のタレをかけて食べるスタイルです。麺を打つ音『ビャン!』が由来となっており、擬音語を漢字にしたと言われています。

蘇州や上海でも看板を見かけます。味はちょっと辛めですが、見た目も名前もそして味もインパクト抜群です。



KHE(中国・蘇州)(総経理:山本 博史)

皆様いかがお過ごしでしょうか。今回は、東京都墨田区にある回向院というお寺を紹介いたします。

墨田区両国の両国駅から徒歩3分の所にある浄土宗の寺院で、開かれたのが300年以上前の1657年となっています。その1657年に焼死者が10万人を超える大火があり、幕命により焼死者を葬った万人塚がこの寺の始まりとなっています。そこからこの寺の理念として、有縁・無縁、人・動物に関わらず、生あるものすべてへ仏の慈悲を説く、という無縁寺となっています。動物を供養するというので、中には猫塚、犬猫供養塔など様々な動物の慰霊碑や供養碑、墓などがあります。

また変わったところでは、時代劇等で活躍する泥棒としてよく聞いたことのある、ねずみ小僧(鼠小僧次郎吉)の墓もあります。彼が長年捕まらなかった運にあやかり、墓石を削って御守りにする風習が昔から盛んで、現在も合格祈願に受験生が訪れるようです(私もしっかり削ってきました)。

今回紹介したもの以外にも供養塔などが寺院内にはありますが、まずはねずみ小僧の墓石を削りに行って、運にあやかってみてはいかがでしょうか。

東日本営業本部(部長:高橋 鉄夫)

夏が終わり一気に冬の気配になりましたが、皆さま体調は大丈夫ですか?

さて、名古屋に戻りはや8カ月。久しぶりに香嵐溪まで紅葉を見に行きました。この香嵐溪は愛知県では一番有名な紅葉スポットと言っても過言ではありません。見頃を迎えたので早朝よりクルマで向かいました。昔は東加茂郡足助町と言っていたのですが、知らぬ間に豊田市に編入されていました。153号線に向かうと、まだ朝7時台だということにもう渋滞が始まっていました。目的地に近づくと臨時駐車場の看板がひしめいており、ちょっと遠いところで800円、それ以外はほぼ1,000円でした。

待月橋の近くまで行き、駐車場に停め、少々歩くと祭りの様な出店が続き良い雰囲気。待月橋の周りはおみじも多く、真っ赤に色づきキレイでした。朝が早かったので刀削麺のお店はまだ閉まっていたのですが、屋台からは甘い良い香りが漂ってきました。手焼きおみじ饅頭を買い、紅葉の下で食べ、短い秋を堪能しました。

中日本営業所(部長:藤谷 弘行)

MAZDA Zoom-Zoom スタジアム広島(略称: マツダスタジアム)の周辺で、広島県のカーブ愛を感じるものを見つけました。それは歩道に埋め込められた長方形のマンホールの蓋です。その蓋には鮮やかな赤とカーブ坊やのデザインが施されています。鯉に乗っていたり宮島にいたり、本拠地のマツダスタジアムで弾けていたり、さまざまです。

このマンホールは広島駅からマツダスタジアムへ向かう歩道で見つけました。丸ではなく長方形にして目立つように工夫されていました。3つ見つけたのですが、後から調べると4つあるようです。

広島市立大学芸術学部の学生が制作したデザインのように、電線共同溝のデザインマンホール蓋は、カーブロードでの設置が『政令市初』となるようです。偶然足元で見つけた蓋でしたが、制作する側目線で想像してみれば、とても奥深いものだ后感心しました。4つ目を探してみようと思います。

西日本営業所(部長:木下 敦裕)

今年も残りわずかですが、妻と二人でどこかへ旅行をしようかと計画しています。妻は中部ジャワのジョグジャカルタへ行きたいと言っています。これまで何回もジョグジャカルタへ行ったことがありますが、車だと約10時間の距離です。今回、道中に私と運転を代われる人がいないことを妻がだいぶ心配していたので、車はやめて電車で行くことにしました。インドネシアの電車は新幹線のようなスピードはもちろんなくて、通常の電車だと約7時間でジョグジャカルタまで着きます。ただ、電車の中は飛行機と同じく通常のエコノミー席とVIP席があります。VIPだと食事、飲み物などを定期的に出してくれるそうです。VIPの場合、切符代は一人当たり少し高いですが約15,000円で、エコノミーの場合は約8,500円です。今回は妻にサービスしようかと思ってVIP席を選びました。

ジョグジャカルタに着いたら車をレンタルして旅行をしたいと思っています。ジョグジャカルタには有名なお寺、ボロブドゥール寺院があります。他にもジョグジャカルタ王宮、プランバナナ寺院群、ムラピ火山などがあります。妻と二人きりの旅でゆっくり、いい思い出作りや、記念写真などを撮りたいと思っています。久しぶりの伝統的なジャワ料理、飲み物なども楽しみにしています。

それでは少し早いですが、良いお年をお迎えください。

KJI(インドネシア)(工場長: S.Akhyar)

～12月の我が家はツリー中心です～

いよいよ今年も残りわずかとなりました。毎年なのですが、本当に月日が経つのは早く、気づいたらあっという間に一年が終わってしまう気がします。

アメリカはすっかりホリデーシーズンに入り、街中やショッピングモール、個人のお家までイルミネーションが華やかに点灯していて、とても素敵な雰囲気です。

先日のクリスマスのお話ですが私は一年の中でクリスマスが一番好きなので、この季節が来ると自然と気持ちもワクワクしてきます。自宅にも大きなクリスマスツリーを飾り、毎日少しずつ増えていくプレゼントを見るのが楽しみの一つです。アメリカでは家族間でたくさん

プレゼントを贈り合う習慣があり、我が家でも毎年主人や息子へのクリスマスショッピングをしながら、一人あたり最低でも5個はプレゼントを用意しています。愛犬のLalaにも新しいクリスマスウェアを着せて、週末はクリスマスショッピングに出かけていました。

皆さんもホリデームードを楽しんでいますか?12月は仕事も忙しくなる時期ですが、体調に気をつけて、今年のラストスパートを一緒に頑張りましょう!

また、今年一年、本当にありがとうございました。新年が皆さまにとって良いスタートになりますよう心からお祈りしています。

来年もどうぞよろしくお願いいたします。

KCS(アメリカ)(GM:Ayano Donnelly)

先日、オートメカニカ見本市のために上海へ行きました。

いつものように展示会終了後の渋滞を避けるため、会場から徒歩圏内のホテルを選んだところ、そのロビーに興味深い場所がありました。長いテーブルの上に自転車2台立てかけられ、充電ポイントも2つ備わっていたのです。

スマホを充電したいですか?できますよ、ただし充電ポイントに電気を供給するには自転車を漕ぐ必要があります。スマホを充電しながら運動できるスマートで楽しい仕組みです。残念ながら、この設備を試す時間がなかったもので、充電にどれくらい時間がかかるのか分かりません。次回試してみます。

さて、2025年ももうすぐ終わりですね。

皆様が年末に友人や家族と楽しい時間を過ごされますように。

KIO(シンガポール)(E.Wong)

先日中国を訪れた際、中国の自動車市場をより間近で観察する機会がありました。ヨーロッパでは、ますます色々な中国車ブランドがEU市場に製品を提供しており、そのほとんどはEVまたはPHEVです。EUで活動する中国車ブランドが増える一方で、まだEUに進出していないブランドも数多くあります。私が目にした車の多くは、ブランド名を聞いたこともありませんでした。最近の車を見てみると、確かに見た目は良いと認めざるを得ません。いくつかのデザインは他ブランドの既存モデルを模倣しただけのものもありますが、独自のデザインも数多く見られました。

乗り心地や内装も非常に良く、中国ブランドは既存ブランドに追いついたと言えるでしょう。中国ブランドの利点は、そのほとんどが歴史がそれほど古くないため、柔軟性が高く、伝統に固執していないことです。そのため、ガソリン車から電気自動車への転換をよりスムーズに捉えることができます。これらの車が古くなったとき、サステナビリティ、メンテナンス、そしてサービスをどのように維持していくのか、今後の動向に注目です。

これもまた許容範囲内であれば、中国ブランドは非常にうまく機能していると言え、一部の車はヨーロッパにおいても貴重な存在となるでしょう。

KIO(オランダ)(Ferri Visser)